



筑後川に関するクイズに答える子どもたち(福岡県久留米市の「くるめウス」で)

### 大賞

# 川の保全県境超えて

## NPO法人筑後川流域連携倶楽部(福岡)

熊本、大分、福岡、佐賀の4県を流れ、九州で最長の1433キロに及ぶ筑後川。上流から下流まで流域全体の住民団体に連携を呼びかけ、県境を超えた環境保全や地域活性化、防災教育などに力を注いできた。

「これは手動で充電できる懐中電灯。ラジオも聴けるよ」

福岡県久留米市にある筑後川防災施設「くるめウス」。川を知ってもらおうための第一歩として、今月5日に開いた「子どもぼうさいチャレンジ」という講座

恵みに感謝し緩やかな連携で豊かな流域を筑後川流域連携推進事業

の1シーンだ。この日は親子連れ15人が参加し、クイズなどに挑戦した。もともとは年に1回、流域全体の交流を深めるためのイベント「筑後川フェスティバル」を盛り上げようと、個別に活動していた住民や団体が集まり、1996年に発足した。現在の会員数は1000人を超える。筑後川のような日本を代表する河川の問題を考えると、山から川、海へつながる水循環を視野に入れた流域全体の連携が欠かせない。息の長い活動にする

ため、遊びや学びの要素を盛り込んで、住民に関心をもち続けてもらう工夫を重ねてきた。

流域全体をテーマパークとして捉えたユニークな「筑後川まるごとリバーパーク構想」を打ち出し、滝やダム、堰、棚田、橋など川にまつわる場所を訪ねるツアーも企画。家族連れらがツアーを通して川に親しむ機会を提供している。

99年から筑後川新聞を隔月で発行し、今春100号を迎えた。現在2万5000部を流域自治体や会

員に配り、水源となる森の重要性や川の歴史、流域の催しを紹介するなど、情報発信にも力を入れている。筑後川を管理する国土交通省筑後川河川事務所の担当者は「川の保全には住民や自治体の協力が不可欠。倶楽部との協力関係をさらに強めていきたい」と話す。かつて筑後川を介して大分県から杉が運ばれ、下流にある福岡県で家具産業が栄えた。このように、流域4県は経済的にも文化的にも強く結びついてきた。

倶楽部の理事長を務める畠田井正・久留米大名誉教授は「水質浄化や防災の観点から、流域が連携する重要性はますます高まっている。流域の絆を強めていきたい」と力を込める。(久留米支局 関屋洋平)

第18回日本水大賞の受賞者が決まった。大賞には、福岡など九州4県にまたがる筑後川流域の環境や地域を良くする活動を長年続けてきた特定非営利活動法人(NPO法人)筑後川流域連携倶楽部が選ばれた。21日に日本科学未来館(東京都江東区)で、秋篠宮ご夫妻をお迎えして表彰式が行われる。

## 第18回 日本水大賞 受賞者決定 あす表彰式

日本水大賞 安全でおいしく、きれいな水にふれる日本と地球をめざし、水循環の健全化に貢献した活動を顕彰する賞。主催は日本水大賞委員会と国土交通省で、秋篠宮さまが名誉総裁を務められる。読売新聞社、環境 厚生労働、農林水産、文部科学、経済産業、外務の各省、日本河川協会などが後援する。大賞には副賞200万円が贈られる。

### 国土交通大臣賞

NPO法人 パートナーシップオフィス (山形)

美しい山形の海を取り戻すための地域連携活動



海岸に打ち上げられたごみを拾う参加者(飛島で)

山形県酒田市の沖約40キロの日本海に浮かぶ飛島・飛島。魚釣りや野鳥観察が楽しめる島として知られるが、海外や西日本方面から漂着するごみが、海岸の景観を損ねている。

島の環境を守るべく、2001年から、一般の参加者を募ってクリーンアップ作戦を続ける。当初は、漁具やドラム缶などのごみで砂浜が見えないような場所もあり、言葉も失ったこと理事の金子博さん(61)。地道な清掃活動が功を奏し、島の海辺は少しずつ、美しい姿を取り戻しつつある。

活動を続ける中で考案したのが、ごみの量の評価手法だ。特別な機材は必要な

### 漂着ごみの収集 効率化

06年には国土交通省がこの評価手法を利用して、全国の海岸で漂着ごみの調査を実施。その後韓国でも採用され、成果を上げています。ただ、どんなに有効な評価手法があっても、漂着ごみがなくならないのが現実だ。金子さんは「ごみになる物を、自然界に出さないのが何より大事」と、元を絶つことの重要性を訴える。(山形支局 菊池一真)

### 市民活動賞(読売新聞社賞)

NPO法人 せっけんの街(千葉)

地域の中で一人一人が参加する環境保全型街づくり



粉せっけんをボトルに詰める「せっけんの街」職員ら(千葉県柏市で)

千葉県柏市にある工場で、職員や障害を持つ若者がサラサラした白い粉をボトルに詰める作業に精を出している。粉は、使用済みの食用油にカセイソーダを混ぜて作った「リサイクルせっけん」だ。「環境への負荷が少ないせっけんです」。延吉慎一事務局長(66)は胸を張る。

グループが、家庭などから出る食用油を資源として回収し、せっけんに作り変える活動を始めたのは、約30年前。柏市や隣接自治体にまたがる手賀沼の水質が、1970年代、生活雑排水の影響により悪化し、全国の湖沼でワースト1になったことが背景にある。

### 手賀沼守れ せっけん運動

「手賀沼を守りたい」。周辺の市民が立ち上がり、環境に負荷が少ないせっけんの使用を呼びかける運動が、80年にスタート。運動は地域に広く浸透し、1万人以上の市民が出資して、85年にせっけん工場が柏市に完成した。

食用油の回収は約2か月に1回、周辺16自治体の個人や団体の会員(計約300軒)を回収車で訪ねて行う。これまで約2000トンを回収し、約3000トンのせっけんを生産した。

須田恭子理事長(56)は「豊かな自然を残すのが私たちの願い。この活動を次の世代につなげたい」と話している。(千葉支局 佐賀秀玄)

【環境大臣賞】地域協働で水の都・三島の水と緑のネットワークを創造=NPO法人グラウンドワーク三島(静岡)

【厚生労働大臣賞】水道OBよ!立ち上がり!!=NPO法人水道千葉(千葉)

【農林水産大臣賞】多摩川源流大学による源流域の自然保全活動及び教育活動=東京農業大学(東京)

【文部科学大臣賞】福島原発事故後の茶屋沼の環境と微生物-微小生物による汚染水から放射性物質の除去の可能性-=福島成蹊高校自然科学部(福島)

【経済産業大臣賞】AQUA SOCIAL FES!!=株式会社トヨ

タマーケティングジャパン(東京)

【国際貢献賞】中東オマーンにおける石油伴生水からの新規水資源の創出 石油伴生水で砂漠を緑に=清水建設株式会社(東京)

【未来開拓賞】世界自然遺産「白神山地」の麓で展開する防災・環境保全・観光振興に繋がる活動=青森県立木造高校深浦校舎・青森県深浦町・白神の生き物を観察する会(青森)

▼草(あし)から「Zoo」=名古屋立名古屋商業高校(愛知)▼大学生の熱意と行動力で外来水生植物から琵琶湖を守る=NPO法人国際ボランティア学生協会(東京)

【審査部会特別賞】流域全体で木曾三川の水環境を守る~地域経済の自

3賞以外の受賞者